

巻頭言

豊かで幸せな生活の実現に向けて

大阪体育学会副会長

梅垣 明美（同志社女子大学）

先般開催された FIBA バasketボールワールドカップ 2023 では、日本チームの快進撃が連日放送され、日本中を興奮の渦に巻き込みました。日頃、スポーツの話をしていない人まで、「昨日のバスケの試合、興奮したー」というありさま。スポーツには、なんと大きな力があることかと改めて思われました。

そんなスポーツを直接対象として、学際的といわれるごとく様々な観点から研究している私たち研究者の恵まれた立ち位置を自覚しました。と同時に、人々の生活をより豊かで幸せにするために私たちには何ができるのか、責任の重さも感じ取りました。

本学会は、日本を代表するトップアスリートの育成に携わっている指導者、トップアスリートをスポーツ科学研究の立場からサポートしている研究者、子どもから高齢者まであらゆる世代の健康づくりに貢献している研究者、スポーツビジネスで人々の経済活動を活性化し、スポーツでまちづくりを担っている研究者など、様々な領域を専門とする先生方で構成されています。スポーツに携わる研究者の役割は枚挙にいとまがありません。

日本体育・スポーツ・健康学会が領域横断型の研究活動を活性化させるという試みを開始して3年が経ちました。いろいろと批判があるもののなかなか面白い試みだなと個人的には思っています。本学会でも専門領域を超えて、お互いが協力しあうことで大きな力が生まれるのではないかと考えています。

本学会活動を通して先生方の研究活動がますます発展することを期待します。